

令和6年度 第5回 糸満市地域公共交通協議会 議事録

【開催日時】:令和7年1月21日(火) 14:00~16:00

【開催場所】:糸満市役所 3-C 会議室

【出席者】:26名 (別紙1 糸満市地域公共交通協議会委員名簿)

※会長欠席のため、副会長が議長として進行を務めることとした。

1. 協議事項

(1) 糸満市地域公共交通計画(素案)について…(前回議事録の確認・基本的方針における修正点の説明)

■共創について

【亀谷委員代理:新城】前回の亀谷からの提案がしっかりと反映されている点は非常にありがたい。議事録にも記載されている通り、国交省としては他分野との共創を積極的に進めており、特に中小企業が多い地域では、単独での解決が難しい課題が多いため、他分野と連携し課題解決に取り組むことが重要だと考えている。60頁に相乗効果について記載されているが、糸満市でも同様に連携して課題に取り組んでいけることを期待している。

【慶田委員】65頁に記載されているブーゲンビレア号は、まさに他分野との共創の一例であり、かなり前から取り組まれているため、糸満市は非常に先進的だと感じる。

■広域連携について

【平良委員代理:神里】県では、今年度5月に「沖縄県地域公共交通計画」を策定し路線バスの維持確保を進めている。その中で、最近、77番路線に関する課題が発生したが、改めてバス事業者、市町村、県が十分に連携し、維持確保に取り組んでいきたいと考える。また、維持が困難な場合には代替交通手段の検討も進め、県民の交通確保を図りたい。さらに、計画内では圏域ごとに利便性の高い公共交通ネットワークとして、南部圏域など広域的な連携ネットワークの形成にも取り組んでいく予定である。関連する会議の場も設けており、今後も連携して進めていくつもりだ。(昨年度時点で県内14市町村が地域公共交通計画を策定済みもしくは策定予定である。)

(1) 糸満市地域公共交通計画(素案)について…(具体事業等の説明)

■小型・パーソナルモビリティについて

【慶田委員】68頁の「C)小型・パーソナルモビリティの乗りかた教室」が公共交通の利用促進につながるかどうかは疑問である。46頁のアンケート結果では利用したくないという回答が多かったため、公共交通に該当するか疑わしい。71頁の「7)多様な移動手段の連携、整備に向けた検討・協議」に含めるべきではないかと考える。個人的には、免許なしで公道を走行する乗り物には好意的でない。

【島田副会長】市として小型モビリティを積極的に推進していくのかという点も問われている。

【事務局】おっしゃる通り、市民アンケートの結果では高齢になるほど利用意欲が低いという結果であった。事務局としては公共交通に乗り継いでもらうラストワンマイルの移動、すなわち公共交通

の補完的位置づけとして利用促進に繋がることを想定している。どこまで積極的に推進していくかは議論の余地があるが、法律上許可されている乗り物であることを踏まえ、活用する市民が出てくることを想定すると安全教室の実施は必要不可欠であると考ええる。

■モノレール延伸について

【慶田委員】76 頁に「軌道系を含む新しい公共交通システムの導入検討」という施策で BRT・LRT が挙げられているが、前計画ではモノレール延伸検討が記載されていたと記憶している。今回記載がないのは撤退したということか。

【徳本委員】本件について以前関わっていたため回答する。モノレール延伸については 2・3 年前に豊見城市と共に検討を行ったものの、費用対効果などの視点から実現が厳しいという方向性になった。したがって、本計画においては BRT・LRT の導入検討としている。

■計画目標における改善という表現について

【小川委員】63 頁に記載の計画目標「⑭補助対象路線の収支率」について、改善と明記されているが、収支改善には収入の増加か経費の削減が必要であり、運転手の人件費や乗客数の伸び悩みを踏まえると、どちらも容易ではない。関係者が協力して取り組めば可能性はあるものの、事業者単独での経営改善となると責任が偏る懸念がある。事業者も努力を重ねるが、市や地域自治会など関係者間で意識を高め、バス利用促進に積極的に取り組むべきだ。具体的な取組の見通しが不明瞭であれば、目標の表現をトーンダウンさせることも検討すべきではないか。

【徳本委員】補助路線の収支改善は関係者で取り組む必要があると考えている。現状、いとちゃん mini は非常に利用されており、路線転換の可能性を検討すべきだと思う。

【事務局】現在、運賃改定の検討も進めている。また南部循環線については、延伸が令和 3 年のコロナ禍に重なり、市民への周知が十分でなかったと認識している。今後は地域説明会を通じて周知を図り、利用促進に向けた多様な取り組みを積極的に進めていきたい。

■真栄里地区新交通ターミナルについて

【小川委員】真栄里の整備可能性についてはどのような状況にあるのか。また、ターミナル法を活用して整備を進める計画があるのか。

【鹿毛委員】事業者にとってバスターミナルは起終点に関係するため、その行方が気になる。現在、糸満バスターミナルは老朽化から修繕計画など検討している状況であり、この修繕にかかる予算がバス路線事業にも影響を及ぼす可能性がある。こうした状況を踏まえると、真栄里地区の整備動向について気にかかるところだ。

【上原斉委員代理】77 頁に示される真栄里地区は、糸満市区画整理事業として推進されており、交通結節機能の整備が図られている。これがうまく機能すれば交通の利便性が向上すると考えられるため、ぜひ成功させたい。

【事務局】民活による整備ということで、民間事業者の提案内容によって整備の方向性が定まる。事業者決定の際には、担当部署から意見交換の場が設けられると考えられるため、その際に課題や提言を積極的に出してほしい。

■路線再編について

【名嘉山委員】バス事業者として、70 頁の「A) 既存路線バスの再編」による事業への影響が懸念される。再編は必ず影響を伴い、他地域で大幅な変更が行われた事例もある。計画は5年の短期目標だが、運転手不足や高齢化が進む中で、公共交通の維持確保と再編のバランスが懸念される。

【事務局】再編については事業者の経営戦略を十分に尊重して協議を進めていきたい。

■児童の乗りかた練習・体験について

【佐藤委員代理: イズミ】68 頁に記載された「B) 路線バス・いとちゃん mini の乗りかた教室」について、当社もお客サービスの一環として、県立西崎特別支援学校の先生からの依頼に応じて、バスに乗る練習を実施したことがある。また、他にもさまざまな目的で同様の依頼を受け、その都度対応し、利用者に練習してもらう取り組みを行っている。

【又吉委員】バスの乗り方練習という取り組みは面白いと感じた。各学校や地域の自治会・子供会で、長期休暇のイベントとして実施できれば良いのではないかと。すべての子供たちにとって有益な取り組みだと感じたので、組織に持ち帰って提案してみたい。

■イベント時の交通について

【比嘉委員】コロナ後、糸満漁港北区では大型イベントが増加し、駐車場の確保に苦労している現状が見受けられる。いとちゃん mini を含む公共交通機関の普及は、駐車場問題の緩和に繋がるだけでなく、地域活性化にも寄与すると思われる。今後も交通環境の整備や交通手段の分散について、引き続きご尽力いただけることを期待している。

■全体の最適化について

【崎濱委員】107 番・108 番南部循環線の利用率が低い一方で、いとちゃん mini のお断りが増えている現状を踏まえると、全体的な最適化を図る必要があると感じている。ぜひその取り組みを進めてほしい。

■広域連携について

【亀谷委員代理: 新城】移動は一市町村にとどまらないため、**今後は近隣市町村と連携した広域的な計画の取り組みも検討してほしい。**

【平良委員代理: 神里】地域の交通計画を基に、広域的な部分については県が主体となり、ネットワークのあり方を検討していきたいと考えているので、引き続き連携をお願いしたい。**なお、75 頁のネットワーク図については、まだたたき台の段階のため、省略していただけると助かる。**

【事務局】ご指摘の図表を削除し、八重瀬町コミュニティバスといとちゃん mini の乗り継ぎなど個別事業を記載し、周辺市町との交通計画連携を盛り込む内容に書き換えたい。

■シームレスな移動について

【森山委員】地域の公共交通において、さまざまな移動手段が検討されているが、それらをどうシームレスに繋げていくかが重要な課題である。例えば、乗り換え回数が多いことや、その都度現金で支払いをしなければならないことなど、利用者にとっての負担をどれだけ軽減できるかがポイントとなる。**77 頁にある MaaS は最終的な方向性の一つと考えられるが、現行のシステムや例えば、どの公共交通でも OKICA が利用できるなど、身近にできる取り組みも地道に進めていくことが重要だと感じた。**

【島田副会長】利用促進において OKICA の活用が言及されたが、より多くの人々が便利に利用できるよ

う、市の地域通貨などを活用した独自性のある取り組みについても検討の余地があるのではない
か。

■クロスセクター効果の示し方について

【森山委員】74 頁で示されるクロスセクター効果や経済波及効果の検証について、この計画を進める
上で、どのような効果があったかを検討する指標として重要であると感じた。これまでの取り組
みや新たに策定された計画の効果を、どのように示していくかが課題であり、経済波及効果の計
算方法や結果の見せ方についても検討が必要だと感じた。

【徳本委員】持続可能な交通を考える上で、共創やクロスセクター効果は重要な要素だと考える。74 頁
では文言だけでの表現となっているが、定量的なデータを示してもらえるとありがたい。

■広域的な周遊観光バスについて

【上原長榮委員】商工会としては、インバウンドの誘致を望んでおり、そのためにも公共交通の改善に
期待している。観光地を周遊するバスなどがあれば、より効果的だと考えている。また、南部地
域商工会の集会での合言葉は「南部は一つ」であり、南部広域で観光地を回る交通手段があれば
望ましいと感じている。

■バス待ち環境の改善について

【久保田委員】ひめゆりの塔前でレストランとお土産店を運営している立場として、最近、路線バスで
観光地を巡る旅行者が増えていることを嬉しく感じている。しかし、バス停には表示があるのみ
で、ベンチがない現状が見受けられるため、観光地のバス停整備を行政にお願いしたい。観光客
の増加により、バスの運行回数が増え、地域にも良い影響があると考えます。

■地域の交通について

【又吉委員】児童生徒の視点で見ると、地域によって交通の負担に格差があると感じており、この計画
を通じて、地域ごとの負担が平等になり、移動がしやすい市になることを望んでいる。

【国吉真昭委員】近くのお年寄りからは、免許返納後の移動手段について相談を受けることがある。い
とちゃん mini はあるが、車のように便利には使えないという意見も聞かれる。また、国吉線が
なくなった後、子どもたちはほとんど親が送っている状態で、地域の交通手段についての改善を
求める声もある。

■市担当課について

【山内委員】ヒアリングが実施され、事業の取り組みでは担当課が示されているが、役所全体で取り組
む必要があると考える。

【国吉丘委員】現場の担当部署との意思疎通が不十分ではないかと懸念している。具体例として 69 頁
の子育てサポートタクシー導入検討では、保育こども園課が担当となっているが、未就学児の利
用は現実的でなく、安全面への配慮も不十分に感じる。タクシー事業者への対応含め、現場が認
識しているか疑問がある。他の項目でも同様の懸念がないか、気になるところだ。

【事務局】再度、担当部署との調整を図りたい。

■高齢者の外出について

【島田副会長】あるデータによれば、沖縄県は全国と比べて急速に高齢化が進んでおり、特に男性が外

出しない傾向が強く、後期高齢者の在宅率が非常に高いという結果が出ている。この傾向は今後5年以内に顕在化する可能性が高いため、その点を意識してほしい。

（2）今後のスケジュールについて

【委員一同】異議なし。

2. その他

【事務局】次回協議会はパブリックコメント等の事務作業により開催日を2月26日とする。

【委員一同】了承した。



写真：会議開催状況

■令和6年度第5回糸満市地域公共交通協議会委員名簿

別紙－1

	氏名			区分	所属	役職
1	欠席	会長	大城 郁寛	学識経験者	琉球大学	名誉教授
2		副会長	島田 勝也	学識経験者	沖縄大学地域研究所	特別研究員
3		小川 吾吉		一般乗合旅客自動車運送事業者及びその団体	株式会社琉球バス交通	代表取締役
4		鹿毛 建造		一般乗合旅客自動車運送事業者及びその団体	那覇バス株式会社	取締役副社長
5		名嘉山 敬雄		一般乗合旅客自動車運送事業者及びその団体	沖縄バス株式会社運輸部	業務課長
6		山下 政文		一般乗用旅客自動車運送事業者及びその団体	糸満タクシー株式会社	運行管理者
7		慶田 佳春		一般乗合旅客自動車運送事業者及びその団体	一般社団法人沖縄県バス協会	専務理事
8	代理出席	仲里 隆		一般乗合旅客自動車運送事業者及びその団体	有限会社美ら島	取締役会長
9	代理出席	佐藤 智彦		一般乗合旅客自動車運送事業者及びその団体	東京バス株式会社	常務取締役
10	会長委任	喜屋武 悟		一般乗合旅客自動車運送事業者の事業用自動車の運転者が組織する団体	私鉄沖縄県労働組合連合会	執行委員長
11		国吉 真昭		地域代表者	真栄里自治会	会長
12	会長委任	照屋 好範		地域代表者	真壁自治会	会長
13	会長委任	徳元 勲		団体代表者	糸満市老人クラブ連合会	会長
14	会長委任	伊敷 郁子		団体代表者	糸満市女性連合会	会長
15		又吉 琢巳		団体代表者	糸満市PTA連合会	役員
16		久保田 徹		産業界代表者	糸満市観光協会	会長
17		上原 長榮		産業界代表者	糸満市商工会	会長
18	代理出席	亀谷 匡哉		運輸局	沖縄総合事務局運輸部企画室	室長
19		崎濱 秀治		運輸局	沖縄総合事務局運輸部陸上交通課	課長

20		森山 正三	道路管理者	沖縄総合事務局南 部国道事務所	副所長
21		比嘉 俊佳	都道府県警察	沖縄県糸満警察署 交通課	課長
22	代理 出席	平良 秀春	地方公共団体	沖縄県企画部交通 政策課	課長
23		徳元 弘明	地方公共団体	糸満市	副市長
24		上原 斉	地方公共団体・道路管理者	糸満市建設部	部長
25		山内 昌直	地方公共団体	糸満市市民健康部	部長
26		国吉 丘	地方公共団体	糸満市企画部	部長

事務局		
1	新垣 行則	糸満市市民健康部 市民生活環境課 参事兼課長
2	大仲 良史	糸満市市民健康部 市民生活環境課 主幹兼係長
3	上原 理斗	糸満市市民健康部 市民生活環境課 主事
4	上間 淳也	沖縄しまたて協会
5	豊里 博輝	沖縄しまたて協会
6	又吉 杏美	沖縄しまたて協会
	計 6 名	